場所・面積　　茨城県桜川市、0.7ha



活動目的

本サイトの自然との暮らし、文化の関わりを未来へとつなげるため、体験を通じて理解を深め、継続的なサポーターを育てていくと同時に、地場の農林業が活性化し、事業として現場である里山が維持できるよう共創していくことを目的とする。

サイト概要

本サイトは、茨城県桜川市真壁町羽鳥地内の筑波山麓（標高60－70m）に位置し、霞ケ浦並びに桜川の水源に位置する谷津田で、二次林、水田からなる里山景観が形成されている。ここでは筑波山から流れてくる水だけを利用して、無農薬無化学肥料で生物多様性保全を第一にした米づくりと、ビオトープも設置し生物多様性の保全、向上を図っている。数十年前は周辺地でも当たり前にみられたホタル（ゲンジボタル、ヘイケボタル）が、現在では本サイトのみで確認されるなど、里山の生物多様性の特徴的な種が保全されている場所である。

土地利用の変遷

水田は詳細は定かではないが、江戸時代後期から米づくりが行われてきた場所。サイトに隣接する森は、北向き箇所はコナラが優占する二次林、東向き箇所は植林されたスギ混じりの二次林、南向きはシラカシが優占する二次林となっている。また隣接地には古代から人々が集まり歌垣が行われてきたとされる神社があり、自然と暮らし、文化が共存してきた歴史深い場所である。自生のヤマザクラも多く生える森林環境である。

サイト周辺の環境

サイトは私有林と耕作放棄地に囲まれている。私有林は昔は松林だった。現在はシラカシなどの常緑広葉樹が優占する森林へと遷移してきており、現在これの手入れにも取り組んでいる。隣接する耕作放棄地についても年1－2回程度の草刈りを実施。

アピールポイント

神社の麓にあるこの田んぼは、昔から人々が集まり歌垣が行われてきた歴史文化のある場所である。またここは流水性、止水性の両方の生きものが集う生物多様性が豊富な場所であり、共生サイトに認定されることで、都心から90分とアクセスが良いことを活かし、過疎高齢化で維持管理が難しくなってきた周辺の里山を含めた維持管理を担う人々を呼び込み、生物多様性向上に貢献したい。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは三方向を二次森に囲まれた筑波山麓に位置する谷津田です。十数年前までは、隣接地も水田耕作や畑作、原木採取のための森林整備などが行われていましたが、サイト周辺でそれらの活動は継続されておりません。ヤマアカガエル、ゲンジボタル、ヘイケボタルなどの動物が確認されている。

【主な植生】

【水田内】イネ
【水田畔】チガヤ、ギシギシ、アズマネザサ、ススキ

【確認された主な動植物など】

申請区域内で確認されたのは植物62種、両生類6種、爬虫類7種、昆虫51種、甲殻類3種、環形動物4種、魚類1種である。なお、申請区域を含めた周辺区域では植物105種、鳥類39種、両生類6種、爬虫類7種、昆虫91種、甲殻類3種、環形動物4種、魚類2種が確認されている。申請区域内で確認されている主な種は以下のとおりである。

【水田内】植物：イネ(*Oryza sativa*)
両生類：ニホンアマガエル、ヤマアカガエル
昆虫類(トンボ)：シオカラトンボ、シオヤトンボ、ハラビロトンボ
昆虫類(チョウ)：キアゲハ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウヤマトシジミ
昆虫類(甲虫)：ヒメゲンゴロウ、ヒメアメンボ

【水田畔】植物：チガヤ、ギシギシ、アズマネザサ、ススキ



写真の説明：サイト内でみられたヤマアカガエル



写真の説明：サイト内でみられたアブノメ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
１．管理目的 人と自然が共存することで培ってきた里山環境と生物多様性保全のための米づくり、体験と環境学習の場の提供。 ２．目標 活動を通じて健全な水資源の保全を継続するとともに、2030年までに現地に生息する生物の数および種類を現状より増加させる。 ３．管理方針 ・伝統的農法による農地の維持 ４．管理措置 ・農薬の不使用、化学肥料の不使用 ・田んぼの除草による生きものに住みやすい環境維持と稲の生育確保（５ 、 ６ 月） ・畦畔の定期的な草刈り（年4 回） ・イノシシの侵入対策点検強化（2週に一度） ・サイト外　周辺耕作放棄水田の草刈り（年１～２回） ・サイト外　隣接森林の手入れ（適宜） ５．管理期間 通年（稲作計画に準ずる） ６．備考 管理計画に基づいてこれらを実施し、人の働きかけに依存する里地特有の植生や動植物の保全に貢献する。	**【モニタリング対象】** 水田と周辺の畦畔における動植物 **【モニタリング場所】** サイト内の水田と周辺の畦畔 **【モニタリング手法】** ラインセンサス、活動体験プログラム時調査、日常的な観察と調査 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** 毎月１回 **【モニタリング実施体制】** NPO法人アサザ基金が田んぼの維持管理時に実施、レゾナックグループは社員参加プログラム時に実施